

## 1 研究テーマ

自己表現する力を育む英語学習

～「語順指導」と「音読指導」の連動を通じた「書く力」の育成～

## 2 はじめに

平成24年度から全面改訂される新学習指導要領で、英語の授業時数は中学校の教科の中で最も多い週4時間となる。また、小学校外国語活動の導入に伴い英語を「読むこと」や「書くこと」にも力を入れて4技能を総合的に伸ばす必要が出てきた。ただ単に授業時数が増えたというのではなく、ねらいを明確にし、生徒が自信を持てるような自己表現活動を設定していくことが求められている。そしてそれがまた新しい学習意欲を生むと考える。本研究では、所属校の実態や課題を踏まえ「自己表現する力」を育むための方策に視点を置くこととする。

## 3 研究目的

自己表現することをねらいに置き、自分のことや身近な事項について英語で話したり書いたりする力を育てたい。その中でも本研究では「自分の知っていることを他の人に伝える」という「書く力」を育てることを目的とし、その具体的方策を考えていく。

(資料1)

## 4 研究内容

### ○語順指導

英文の規則性を習得させ、英文を書く手立てとする。

### ○音読指導

『音韻と文構造の基本的システムを獲得でき、語彙チャンクが蓄積され、反復によって文法規則の自動化が図れるもの。基礎的な言語能力を育成する最良の方法が音読だ。』と元文教大学教授の土屋澄男氏は述べている。

(2004. 英語コミュニケーションの基礎を作る音読指導, 研究社)

### ○語順指導と音読指導の連動

語順指導で扱った文を音読することで、扱った英文が身近になり、語順が定着し語彙チャンクが蓄積され、英文を「書く力」につながると考える。(資料1・2)

今回は、特に Read & Look up の方法を取り定着をねらう。

### ○課題設定の工夫

言語活動を英語で行う動機づけをしっかりと行うことが大切。

表現意欲を高めるための課題設定の工夫

- 必然性を高める
- 具体性を高める
- 自己関連性を高める
- 自由度を高める

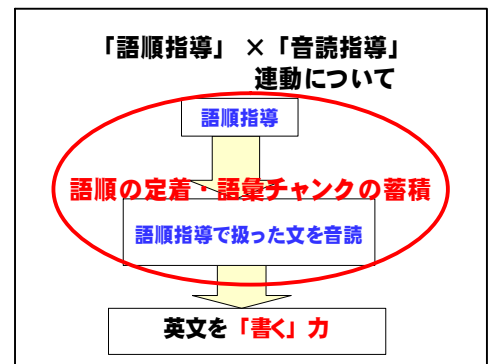
### ● 検証授業の展開

実践校・学年：智頭町立智頭中学校・第2学年 67名

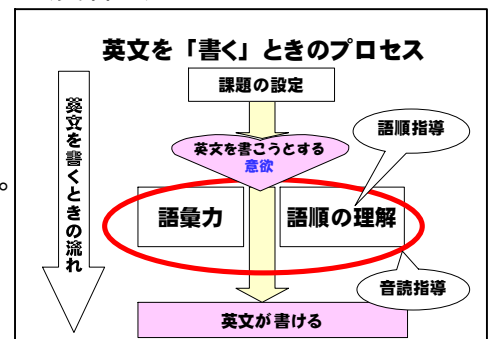
検証授業①：NEW HORIZON 2 Unit3 (7時間)

検証授業②：NEW HORIZON 2 Unit6 (11時間)

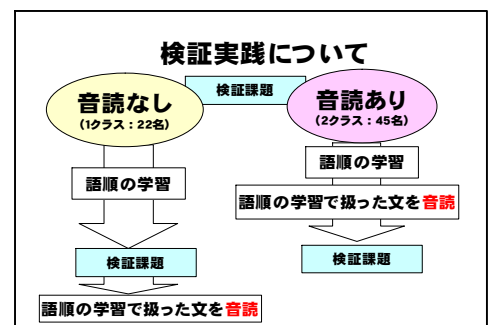
- ・ 検証授業では「語順と音読に関わる活動」を毎時間の授業のラスト10分程度で実施した。
- ・ 検証授業①で、語順指導は語順感覚を養い、英文を書く手立てになることがわかった。
- ・ 検証授業②では、音読指導との連動の効果を知るため(資料3)のように「音読なし群」と「音読あり群」とに分け、比較検証した。



(資料2)



(資料3)

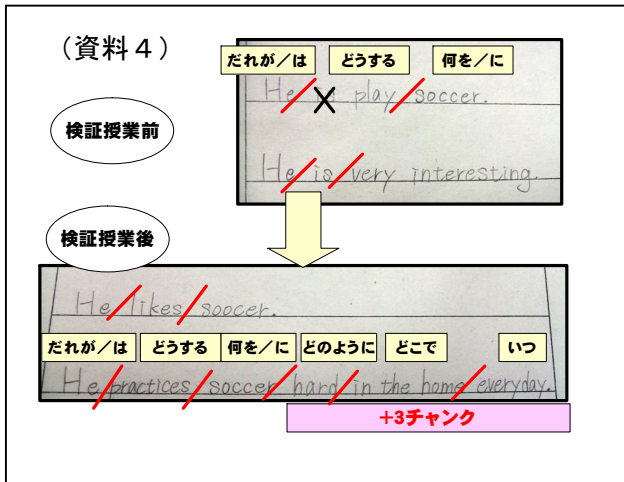


## 5 研究のまとめ

次の4つのことに効果があり、今後この取り組みを継続していくと「書く力」が身につく、「自己表現」できる生徒の育成につながると感じた。

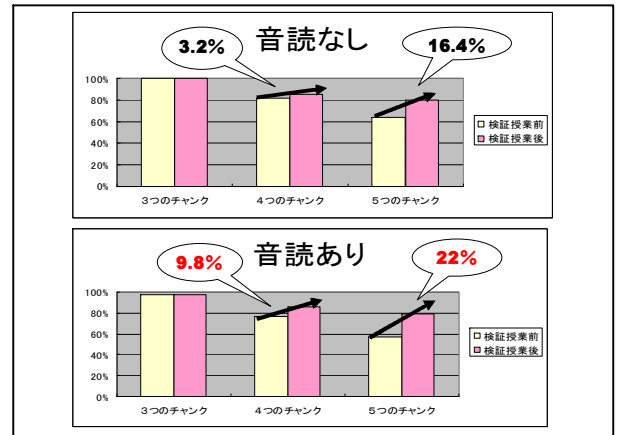
### 検証① 語彙チャンクの蓄積

- ・「音読あり群」のほうがたくさんのチャンクが書けるようになった。
- ・「音読あり群」のほうが1文の中に書くチャンク数が増えた。(資料4は「音読あり群」の中の飛躍的に伸びた例)



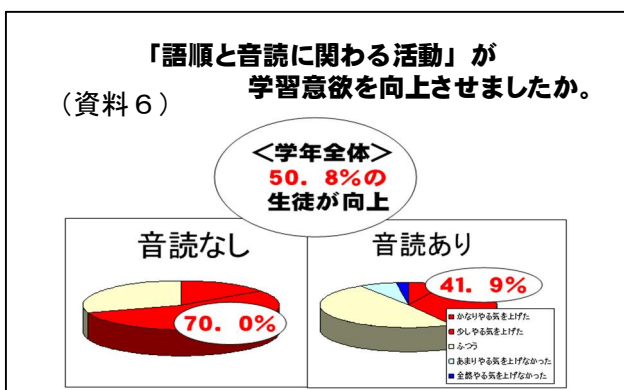
### 検証② 語順感覚の変容

- ・「音読あり群」のほうが語順感覚がより身についた。(資料5)
- ・「音読あり群」のほうが「英文のきまりがわかった。」と検証授業後のアンケートに回答した。(「音読なし群」65.0%、(資料5) 「音読あり群」81.4%)



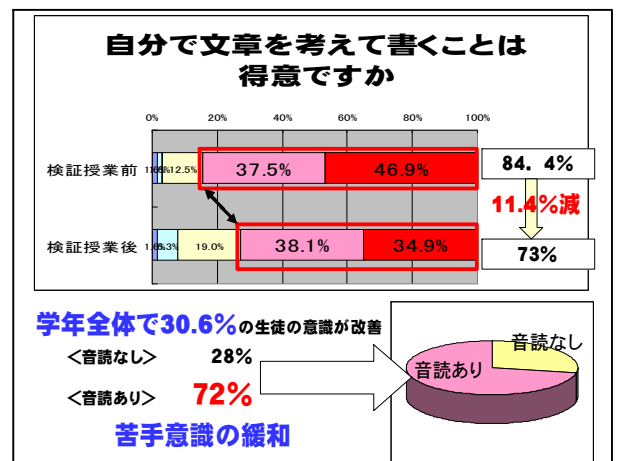
### 検証③ 学習意欲の向上

- ・この「語順と音読に関わる活動」により、学年全体の50.8%の生徒の学習意欲の向上が見られた。「音読なし群」と「音読あり群」では学習意欲の向上に大きく差が出た。(資料6) 音読学習での「覚えて読むこと・相互評価」などが生徒にプレッシャーを与えてしまったのではないか。また学級の雰囲気や音読活動に及ぼす影響は大きく今回その2つの要因が学習意欲を左右したと考える。→課題①へ



### 検証④ 苦手意識の緩和

- ・全体的に英文を書くことへの苦手意識が緩和した。音読により語順の学習が定着し語順感覚が身についたことで、「音読あり群」のほうが苦手意識の緩和は顕著であった。(資料7)
- ・無答率が低下した。(資料7)



## 6 今後の課題

- ① 学習意欲を上げる音読指導の工夫
- ② 自己表現活動における成功体験の必要性
- ③ 語順指導の教材の工夫
- ④ 自己表現できる生徒を育成するための継続・発展指導

## 7 おわりに

書く力を育てるには継続・発展指導が必要である。今回の取り組みに終わらず、今後所属校の先生方と生徒の「自己表現する力」を育てるために、3年間を見通し協力して指導に取り組みたい。

